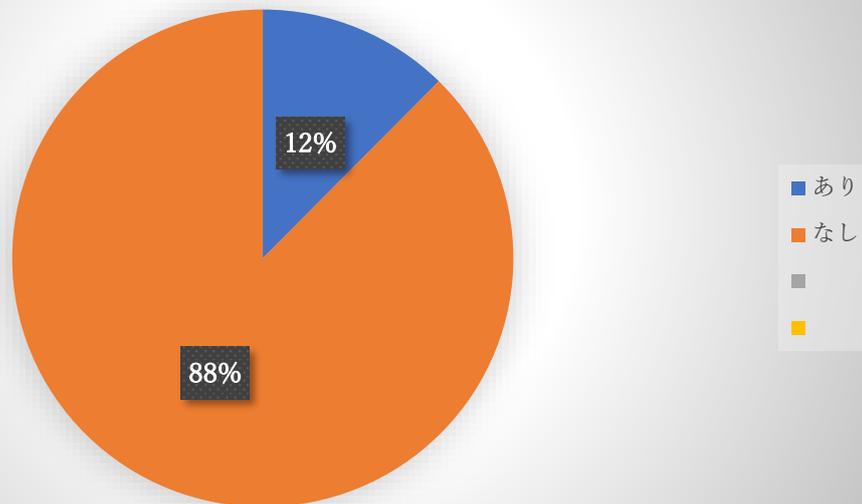


「交通誘導員の確保に関するアンケート」調査結果

<アンケート概要>

- 対象工事：令和元年度に発注・施工した工事（国・県・市町発注工事）
- 対象者：（一社）静岡県建設業協会会員企業
- 回答率：27.4%（会員企業 471 社、回答した企業数 129 社）
- アンケート実施期間（令和 2 年 4 月 16 日（木）～4 月 30 日（木）

1 入札を断念した現場があるか

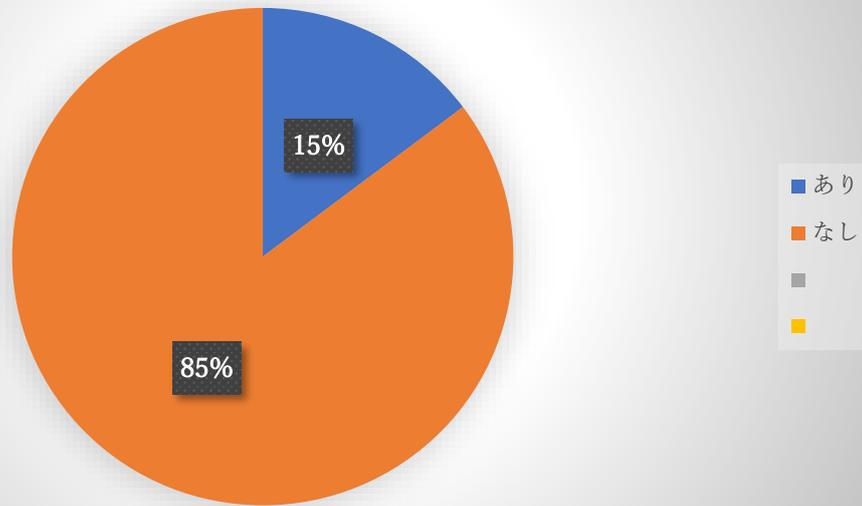


<入札を断念した具体例>

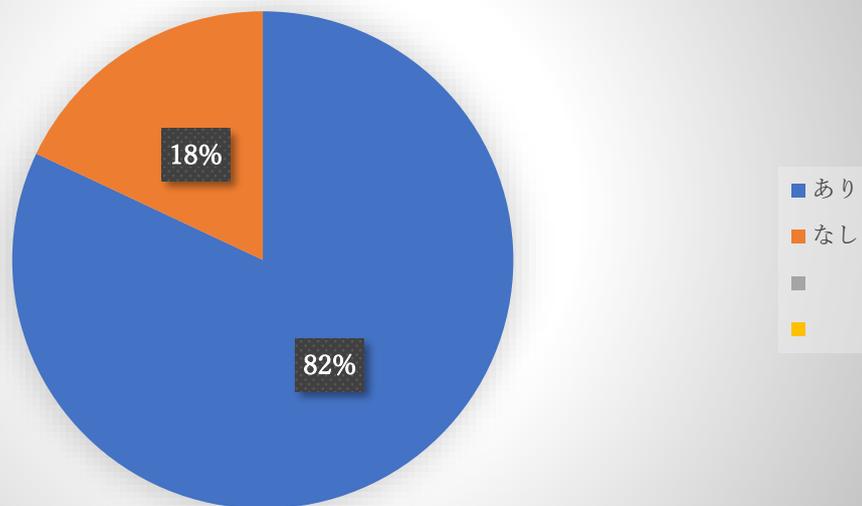
会社名	具体例（状況）
A社（下田協会）	地域のイベントと工事の施工時期が重なったため、誘導員の確保が困難となり入札参加を諦めた。
B社（沼津協会）	国道の規制を伴う排水工事において、夜間工事であること、交通誘導員Aの配置が求められることにより所定の誘導員の確保ができないため入札参加を辞退した。
B社（沼津協会）	警備会社と交渉しても2か月先まで手配が付かないなど、圧倒的な人員不足で、入札参加を断念するケースが多い。
C社（沼津協会）	歩道改良工事において、警備会社6社に問い合わせたところ、「手配できない」「日当が22,000円になるがよいか？」とのことで、入札を断念した。
D社（富士協会）	夜間工事における誘導員の確保が特に困難である。必要人員6名に対し3名しか確保できず入札参加を断念した。

E社（富士協会）	上水道管敷設工事において、夜間の誘導員が確保できない理由で入札参加を断念した。
F社（富士協会）	交通誘導員Aが指定されていたので、多くの警備会社に確認したが、確保できず入札に参加できなかった。
G社（浜松協会）	市内、市外の広範囲の警備会社に問い合わせたが、誘導員の確保の見通しが付かず入札参加を断念した。

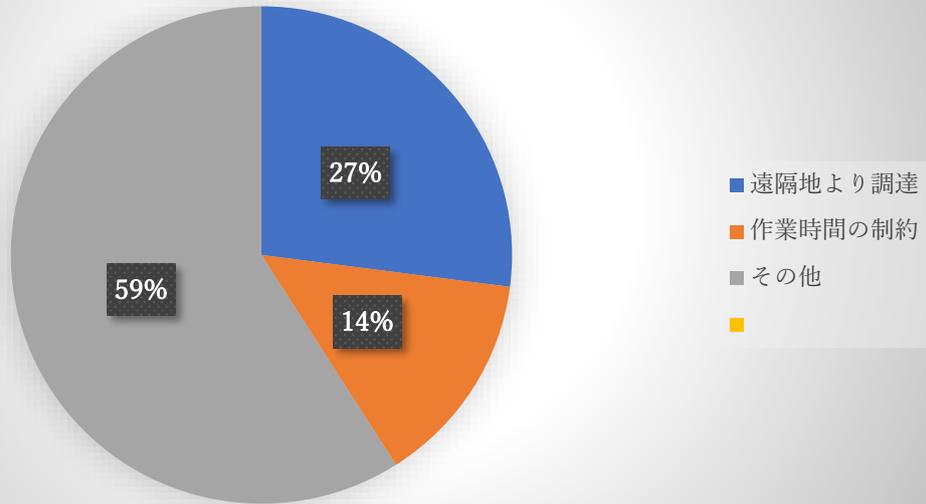
2 工期を延期した現場があるか



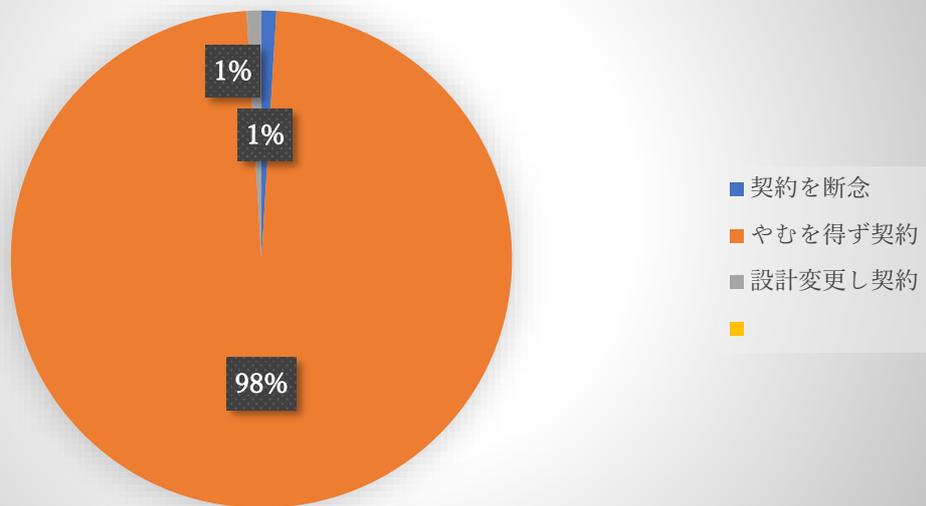
3 単価の乖離した現場があるか



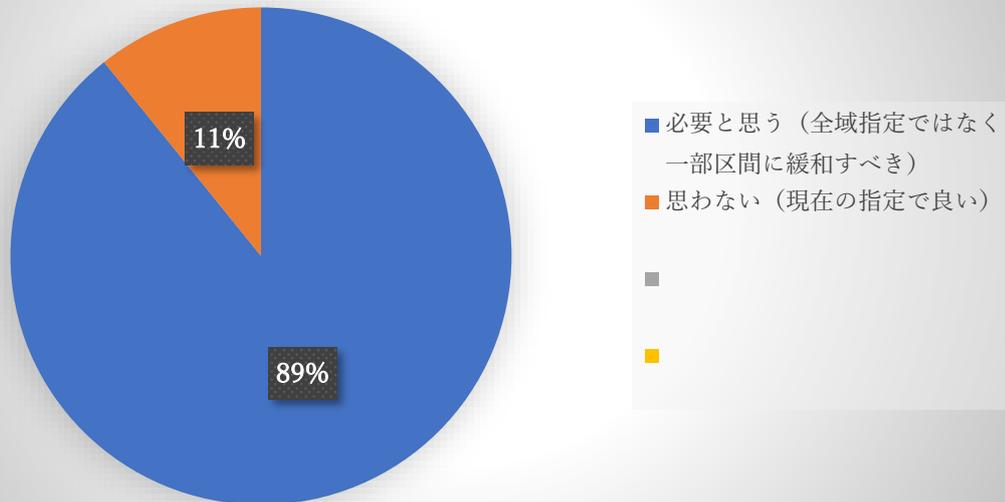
4 単価乖離の理由は何か



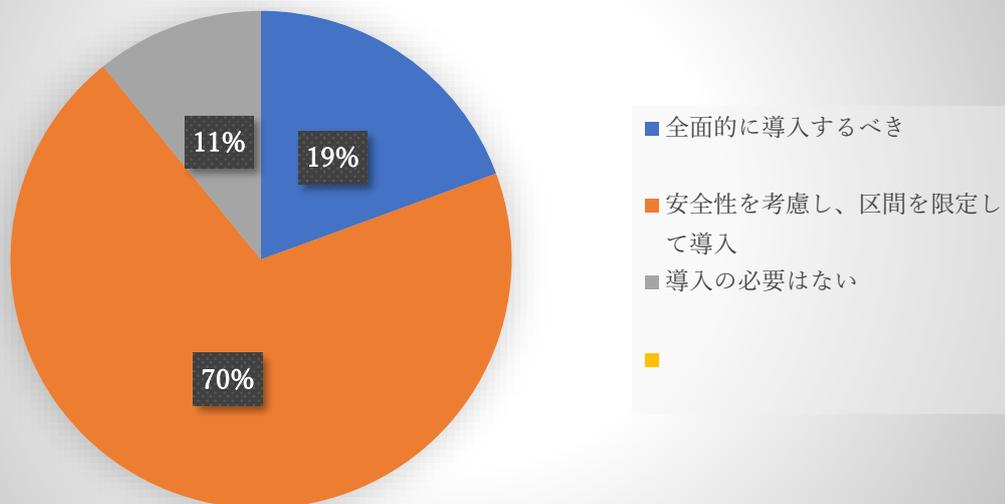
5 単価乖離の場合、どう対応したか



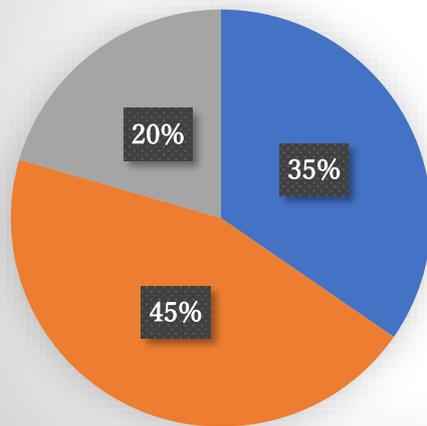
6 指定路線の緩和が必要と思うか



7 自家警備の導入が必要と思うか

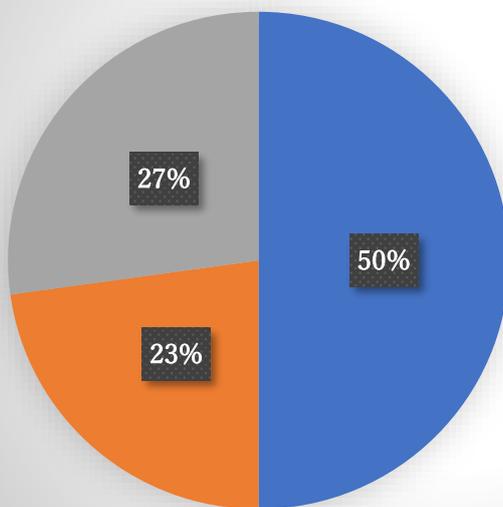


8 自家警備の資格取得に必要な 講習会への参加について



- できるだけ多くの社員に受講させる
- 自家警備の導入内容によって参加を判断する
- 警備会社に委託するので、受講しない
-

9 講習会開催期間（2日）をどう思うか



- 2日間程度は適切である
- 2日間な適切であるが、分散開催が望ましい
- 2日間は通常業務への負担が大きい
-

10 仮設信号機の使用が必要と思うか

